

## オマケの英語教室

### 「on」について 書庫版



英語の前置詞「on」について、我が国の学校で一般的に習うのは「の上」で、「に」でしよう。

自分が中学時代に習った時にはそうでした。

確かに「on」というのは、空間軸（分かり易い様に縦軸をイメージしてみてください）では、それで間違い在りません。

Put on ~ (put it on ~) なら「それを〜の上に置く（置け）」になります。

ところが、時間軸（分かり易い様に横軸をイメージしてみてください）に使うと「on」というのは「最中」と言う事にも成ります。

On air (放送中、録音中)とか on the way to school (学校に行く途中)とかです。

そうして更にこの「on」を続けて「on and on」として使うと

空間軸（縦軸イメージ）なら put it on and on で「それをドンドン「積み重ねていく」というイメージになります。

今度はそれを時間軸（横軸イメージ）で使うと go on and on 「それをドンドン続けて下さい」とか「その先ドンドン行って下さい」のイメージになります。

詰り、いちいちイデオム（成句、常套句）等覚えなくても「on」の縦軸（空間）にも横軸（時間）にも、ドンドン縦や横に増えていく（動いていく）イメージさえ掴みさえすれば、少なくとも此処で示した

「上に」「最中」「積み重ね」「時間の経過」の4つのイディオムに相当する語句を「on」の組み合わせだけで表す事が出来るのがお分かり戴けたかと思えます。

その他にも前置詞の at や to, for, with などでも動詞や形容詞とくっついて実に様々な即興言葉を作り出す事が出来るのです。

覚えなくてはならない単語数がとても少なく済むのです。それこそ中学までに習った単語で十分。折角持っているお宝を思い出すだけ。

自分は海外留学も海外赴任もした事ありません。英語学校に通った事ありませんが、この事(前置詞を持つ基本的イメージさえしっかり掴んでいれば、可成りの表現が即興で可能だ)に気づいて、試しに在日外国人さん達と話してみたら、相当通じたので益々その念を深く致しました。

そこで思ったのは

「英語上達のキモは、試験(進学や就職での)に関係なく学ぶ事」なのではないのかなという事でした。

人にはそれぞれ自分の思考法や嗜好性があります。ですので、当然それに合った覚え方や発想法、話し方が合って当然だと思うのです。

ところが試験となると、好むと好まざるとに関わらず、或いは学習者本人に合うか合わないかに拘わらず「絶対的唯一の定式(答え)」に合わせなくてはなりません。

そうでないと「試験にパス」出来ないからです。それ以外の解答は認められないからです。

これが、我が国の English Speaker の数が増やせない大きな原因なのではないのかな?と思うに至った次第。

詰まり英語とは「固定されたもの」ではなく本来「フレキシブルな即興可能言語」だ

という事。それを様式化するしか方図を知らない明治時代の学者や文官が、完全に取り間違えた結果なのではないかなと。

それが明治以降、現在迄延々と続いている…様な。